

授業科目 NO. 619 看護実践病態論

Pathophysiology in Nursing Practice

授 業 の 形 態 : 講義

単位数 (時間数): 1 単位 (15 時間)

開講年次・学期: 4 年次・後期

必修・選択の別: 選択

キ ー ワ ー ド : 病態生理、臨床推論

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 習 目 標

1) 一般目標 (GIO)

患者の愁訴・症状の発生機序を病態生理学的思考過程で考え、プレゼンテーションとディスカッションを行うことにより、エビデンスに基づいた看護実践につなげるための知識、情報検索力、表現力、批判的思考力を身に付ける。また、病態生理学的思考過程で捉えた患者の主訴・症状を、看護実践にどのように活用するのか、健康問題を解決する上で、医師との見方の違いから、看護の専門性と多職種との協働について、自分の考えを他者に伝え、クリティカルかつアサーティブにディスカッションを行うことができることをねらいに学ぶ。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 医師が診断や治療を行う際の思考プロセスである臨床推論の考え方の概要について述べるができる。(②)
- (2) 各回のテーマにあった主要兆候をもつ事例をもとに、患者の愁訴・症状の発生機序を解剖・生理・病態学の知識を土台とした病態生理学的思考過程で考え、プレゼンテーションすることができる。(②)
- (3) 患者の愁訴・症状の発生機序症候に関するプレゼンテーション内容をもとに、クリティカルかつアサーティブにディスカッションを行うことができる。(②)
- (4) 病態生理学的思考過程で捉えた患者の愁訴・症状の発生機序を、看護実践にどのように活用するのか、医師による見方との違いを意識した上で、看護の専門性と多職種との協働についてディスカッションし、自分の考えを他者に伝えることができる。(②)

3 学 習 内 容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	90%
実習成績	%
レポート	%
授業態度	5%
小テスト	5%
その他（プレゼンテーション）	%
合計	100%

（特記事項）

授業態度はグループワーク、プレゼンテーションなどを含む。

5 教育担当者

科目責任者：島田 ひろき

教 授 島田 ひろき（医科学）
 嘱託教授 甲野 裕之（医科学）
 准教授 尾山 武（医科学）

6 教科書

浅野 嘉延（著）：解剖生理と疾病の特性、改訂第3版、南山堂、2025

7 推薦参考書

- 1) 浅野 嘉延、吉山 直樹（編）：看護のための臨床病態学、改訂第5版、2023
- 2) つなげて理解！病気がわかる解剖・病態イラスト図鑑、第1版、Gakken、2025
- 3) 林 洋（編）：はじめの一步の病態・疾患学、第1版、羊土社、2017
- 4) 竹田津文俊：説明できる 病態生理、第1版、Gakken、2018
- 5) 清村紀子/工藤二郎（編）：機能障害からみたからだのメカニズム、第1版、医学書院、2014

8 準備学修に必要な時間又は具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前学修・事後学修として計180分程度必要です。

講義資料は講義前にe-syllabusに掲示しますので、資料を読んで講義内容を確認し事前学修を行ってから受講するようにしてください。

また、AI等を活用し（要ファクトチェック）、最新の知見もチェックしておくとい良いです。

9 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

試験に関しては、試験後、適宜フィードバックを行います。また小テストについては、講義の中で解説します。

10 履修上の注意事項

e-syllabus に掲示した PDF ファイルを各自で印刷するなど、講義前に資料の内容を確認してから受講してください。

11 オフィスアワー等

質問や資料請求などは授業の際、または e-mail（島田：simada-h@kanazawa-med.ac.jp、甲野：h-kohno@kanazawa-med.ac.jp、尾山：oym@kanazawa-med.ac.jp）等で随時受け付けます。また、直接指導を受けたい場合は事前にアポイント（e-mail 等）を取ったのちに受け付けます。

第4学年

看護実践病態論

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1	11月02日（月）	2	講義	ガイダンス 臨床推論の考え方、看護への活かし方、循環器系（例）心不全の事例 1		医科学	島田教授
後	2	11月05日（木）	2	講義	循環器系（例）心不全の事例 2		医科学	島田教授
後	3	11月09日（月）	2	講義	呼吸器系（例）呼吸不全の事例		医科学	島田教授
後	4	11月12日（木）	2	講義	腎・泌尿器系（例）腎不全の事例		医科学	島田教授
後	5	11月16日（月）	2	講義	消化器系（例）消化管障害の事例	小テスト	医科学	尾山准教授
後	6	11月19日（木）	2	講義	消化器系（例）肝障害、内分泌系（例）パセドウ病の事例	小テスト	医科学	尾山准教授
後	7	11月26日（木）	2	講義	脳・神経系（例）脳卒中の事例	小テスト	医科学	甲野教授
後	8(0.5)	11月26日（木）	3	講義	画像検査、まとめ	小テスト	医科学	甲野教授
後		12月01日（火）	2	試験	定期試験		医科学	島田教授